京都の山

2018.06.11
久家　隆男

４月下旬に京都を歩くブラタモリが放映され、東山（大文字山）と比叡山の成り立ちが話題になっていた。
即ち、以前は東山と比叡山が一つの巨大な山であって、マグマで熱変成を受けてできたホルンフェルスという非常に硬い岩石でできていた。やがて、風化によって内部の花崗岩が現れるが花崗岩はもろいため風雨により崩れ去り、外側の東山と比叡山だけが残ったとのことである。
私はこれを見て大文字山と比叡山に興味を持ち調べてみた。すると、大文字山は麓から山頂まで明瞭な登山道があり、私でも登れそうである。一方、比叡山は延暦寺として知られていて、一般の人が参拝できるように整備されている。
また、私は 30 年以上前に京都に行ったとき偶然か必然かは忘れたが、ホテルの屋上に大勢の宿泊客と上がって大文字焼き等の五山送り火を見たことがある。
このようなことで大文字山と比叡山に登ってみたくなり、遂に６月初めに実行した。

大文字山（465m）

京都駅前からバスに乗り、銀閣寺道というバス停で下車する。土産店が立ち並ぶ道を歩くと、約 10 分で銀閣寺の門前に着く。銀閣寺への入場は 8 時半からだが、未だ 8 時過ぎなので門は閉まっている。門前を左折し、すぐ先で右折すると細い流れに沿った緩い登り道になる。ここまで来ると非常に静かだ。やがて、右にある橋を渡ると登山道らしくなり、きつい所もある。40 分位登り続けると一気に西側が開け、大文字火床に着く。火床は５m位の間隔でいくつもあるが、大の文字のどこに相当するか全く分からない。また、ここから京都市街を箱庭の様に見下ろすことができる。-再び登ると約 30 分で大文字山山頂に着く。この後は南西方向にのんびり下り、約 2 時間で地下鉄の蹴上駅に出る。なお、下山後に最初に使う公共交通機関として地下鉄を使うのは長い山歩きで初めての経験である。

・火床は大谷石で造られ７５ヵ所に点在していて、大の文字の最大長さの部分は160mとのこと。大文字焼きが始まった時期は文献がなくて不明な様で、江戸時代とも平安時代と言われている。大の文字を遠方から見るとしっかりした形になっているが、充分な測量手段がなかった昔に火床をどのように配置したのか不思議に思う。

・京都は内陸にあるので標高が高いと思っていた。しかし、銀閣寺門前で88mとは意外であり、予想より標高差があって登り甲斐があった。

比叡山（848m）

比叡山には東西にケーブルが掛かっているが、ハイキングガイドブックにはケーブルを使わないで麓から登るコースが紹介されている。しかし、私はケーブルを使うことにした。理由は大汗をかいて登った所にケーブルで登った観光客を見るのが嫌なことと、大文字山山行の翌日なので楽をしたいからである。しかし、観光客が辿るコースは避けるようにした。

京都駅から奈良行きのＪＲに乗り、一つ目の東福寺で京阪電車に乗り換える。出町柳で叡山電鉄に乗り換え、八瀬比叡山口で下車する。少し歩くとケーブル乗り場があり、ケーブルに乗り、更にロープウエイに乗り替える。朝早いせいかロープウエイを下りたのは一人の男性と大声で煩い４人の中国人男女だけで、５人とも観光目的だ。10 分位歩くと広い駐車場があり、バス停もある。比叡山の主要な寺の近くには車道が通っていてバスが走っている。ここで観光客と別れ、正面に見える小高いピークを目指して緩く登ってゆく。10 分位であっけなく大比叡（比叡山山頂）に着く。杉などに囲まれた静かな山頂で展望は全くない。比叡山の最高地だが、観光客は殆ど来ないと思う。

大比叡

この後は人気のない山道を 25 分ほど下ると阿弥陀堂の裏に出て、数人の観光客に会う。更に下って西塔に行って堂塔を見る。阿弥陀堂の下まで同じ道を引き返し、東塔の根本中堂に行く。根本中堂は延暦寺を代表する堂のようで観光客が最も目に付く。その内に大阪のおばちゃんが多数来て仙界が俗界に変わってしまった。参拝後、ケーブル延暦寺の駅舎まで下る。駅舎の前から大津の市街や琵琶湖を見下ろす。高低差日本一と言われるケーブルで下り、バスに乗り換えてＪＲ比叡山坂本駅に出て京都駅に戻る。

・比叡山には東塔、西塔、横川の３地域に多数の堂塔が点在し、これらを総称して延暦寺と言い、各地域をバスが巡っている。一方、バス道路から離れた所に車が入れない昔ながらの道があり、歩いている人は少ない。深山の雰囲気のある杉の巨木の下を歩いていると、仏門の修行の地であることを実感する。私はバスに乗らずに３時間ほど静かな道を歩いた。

・往きに乗ったケーブル八瀬駅で「比叡山ハイキングマップ」というパンフレットをもらったが、素晴らしいものだった。どこの観光地にも観光用の案内図を載せたパンフレットがあるが、大半の案内図は縮尺やスケールバーがほとんど記載されていない。スケールバーとは地図上で例えば１ｃｍが実際の距離で何 100ｍに相当するかを直線の目盛で示したものである。これらがないと実際の距離が分からず地図として役に立たない。更に、デフォルメされている案内図が多く、各地点の遠近が分かり難い。ところが、上記マップは地形図をベースに作成したと思われる正確な地図で、縮尺とスケールバーの両方が描かれている。更に 10ｍ毎の等高線も明確に描かれていて分かり易い。私が今までもらったパンフレットでは最高のものである。